

平成24年度防災関連事業計画について（その1）

1 治水対策事業

■雨水ポンプ場整備事業 予算額 410,201千円

平成27年度の供用開始を目指し、芳野ポンプ場の整備を行う。

芳野ポンプ場：樋管及び吐口の整備

区分	排水量	エンジン	電動ポンプ
計画排水量	Q=9.09 m ³ /S	φ1200 mm×3台	φ400 mm×2台
第1期事業	Q=6.22 m ³ /S	φ1200 mm×2台	φ400 mm×2台

■雨水ポンプ場改築事業 予算額 71,050千円

ポンプ場の耐震化に向けた事業を行う。

堀江ポンプ場：詳細設計 事業費70,000千円

豊田川ポンプ場：都市計画決定申請資料の作成 事業費1,050千円

■幹線管渠整備事業 予算額 210,640千円

区分	計画延長	23年度末	24年度	25年度以降
二ツ杵排水区	□1.6m×1.6m ほか L=約530m	L=約120m	L=約160m	L=約250m
下之郷第二排水区	1.2m×1.2m L=約60m 樋管工1式		樋管工1式 (県施工)	1.2m×1.2m L=約60m
水場川右岸排水区	補強工L=約270m		補強工 L=約270m	

■雨水貯留施設設置費 予算額 275,000千円

清洲城広場に雨水貯留施設（2,500 m³）を設置し、効率的な浸水被害対策を行う。

【47計画・河川分の実績】

計画量 ①	実施済み ②	未整備量 ①-②	進捗率 ②/①
19,200 m ³	11,630 m ³	7,570 m ³	60.57%

区分	地区	形態	容量
し尿処理場施設内調整池	新川	オープン調整池	5,085 m ³
清洲インターチェンジ部調整池	清洲	オープン調整池	4,127 m ³
中沼101号	春日	地下貯留	940 m ³
名高速高架下調整池	西枇杷島	地下貯留	835 m ³
助七公園貯留地	新川	地下貯留	293 m ³
夢の森保育園	春日	オープン調整池	200 m ³
ネギヤ保育園	春日	オープン調整池	150 m ³

2 公共施設の耐震化事業

■朝日保育園整備費 予算額 154,487千円

耐震改修のほか、空調や床暖房等も併せて整備することとし、整備水準を23年度に完成する花水木保育園と合わせる。

【施設概要】

所在地/朝日弥生43 延面積/721.53 m² 構造/軽S造平屋建 建築年度/昭和51年4月

耐震性（I s 値）	保育棟	0.328 (▲)	劣化度（評価点）	保育棟	80.5 (○)
		遊戯棟		0.144 (▲)	

【工事内容】

耐震補強（鉄骨ブレース新設・既設ブレース補強）、コンクリートブロック壁の改修、内外装改修（WC）
屋根葺き替え、プール塗替え、外壁塗装、空調設備（ガス）、換気設備、床暖房設備、太陽光発電

3 避難所関連事業

■小学校トイレ改修工事 予算額 232,948千円

避難所でもある市内全小・中学校のトイレ洋式化を進めるため、6小学校（西枇杷島・古城・清洲・清洲東・新川・桃栄）を対象に、トイレの洋式化工事を行う。

【改修後のトイレ洋式化率】⇒和式を1箇所残す形で洋式化する。

学校名	現況				改修後			
	和	洋	合計	洋式化率	和	洋	合計	洋式化率
西枇杷島小	79	6	85	7.1%	16	57	73	78.1%
古城小	57	6	63	9.5%	14	49	63	77.8%
清洲小	60	39	99	39.4%	12	71	83	85.5%
清洲東小	43	11	54	20.4%	11	43	54	79.6%
新川小	47	16	63	25.4%	12	51	63	81.0%
星の宮小	25	34	59	57.6%	12	47	59	79.7%
桃栄小	47	9	56	16.1%	11	45	56	80.4%
春日小（実施済）	20	55	75	73.3%	20	55	75	73.3%
平均	47	22	69	31.9%	14	52	66	78.8%

※星の宮小は、平成24年度に外壁補修工事施工のため、次年度整備予定。

※市内4中学校のトイレについても、平成25年度に整備予定。

■防災資機材整備事業 予算額 4,961千円

災害要援護者のため指定避難所に仮設トイレ、車椅子、簡易ベッド等を設置する。

- 地域福祉避難所（アルコ清洲）
障害者対応仮設トイレ1基、車椅子2台、簡易ベッド5台、間仕切り5セット、酸素濃縮器1台、たん吸引機1台、防災用手回しラジオ1台
- その他全避難所（22ヶ所）
障害者対応仮設トイレ各1基、車椅子各1台、防災用手回しラジオ各1台

4 庄内川・五条川河川改修工事（国・県）

■庄内川築堤工事（別図1）

国道22号線下流部の築堤工事を行う。

■五条川改修工事（別図2）

名鉄津島線の橋梁改築工事を行う。

平成24年度防災関連事業計画について（その2）

1 自主防災組織強化事業

■自主防災活動支援費

予算額 8,844千円

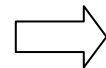
自主防災会のブロック化を推進し組織力を強化するため、自主防災会への支援を拡充する。

【制度改正の骨子】

自主防災組織補助金制度（6,500千円、13ブロック分）

目的 自主防災会への支援を拡充し、自主防災会のブロック化を推進し組織を強化する。

対象	補助内容
自治会単位	資器材購入費用×1/2 補助限度額6万円



対象	補助内容
ブロック単位	資器材購入費用×4/5 補助限度額40万円 ソフト事業費用×10/10 補助限度額10万円 例)地域ハザードマップ、規約、組織図など

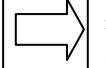
※3年間の時限補助

- 効果 (1) 自主防災会のブロック化は、災害時のマンパワーが期待できる。
 (2) 自主防災会(ブロック)規約は、災害時の役割分担が明確になる。
 (3) 地域のハザードマップは、避難経路や退避ビルが確保される。
 (4) 防災資機材は、災害発生直後の助け合いに活用される。

消火器等の購入に関する補助金制度 2,336千円（65件分）

目的 初期消火活動の重要性と防火意識の高揚を図る。

新設及び老朽の消火器格納箱の購入
老朽及び毀損の消火器の購入
訓練等に使用した消火器の消火薬剤の詰替



新設及び老朽の消火器格納箱の購入
老朽等及び製造後10年の検査義務消火器の購入
訓練等に使用した消火器の消火薬剤の詰替

※全額補助

2 防災訓練

■総合防災訓練（9月1日）

予算額 1,203千円

- 会場 新川グランド
 訓練内容 倒壊家屋救出訓練、救護所設置訓練、要援護者救出訓練、炊き出し訓練、応急危険度判定実施本部設置訓練
 参加機関 広域消防署、市消防団、防災協力会、自衛隊、日赤奉仕団、自主防災会等、

■自主防災訓練

安心して暮らせる事業 200円×世帯

3 災害時要援護者近隣支援体制づくり

■災害時要援護者ネットワーク会議

予算額 172千円

支援レベルの高い要援護者の対応などの諸問題について、関係機関と協議する。

【近隣支援の状況】

対象者 (a)	調査済数	支援指定 済者数(b)	支援不要 者数(c)	支援者 未決定数	未調査数
1,373人	1,066人	739人	281人	46人	307人

※ 未調査の方については、個別に対応し、支援し定率の向上を図る。

4 耐震診断・耐震改修事業

■民間木造住宅耐震診断費

予算額 2,700千円

東海地震、東南海地震等の際、家屋倒壊等による被害軽減を図るため、昭和56年5月31日以前に着工された旧基準民間木造住宅の無料耐震診断を実施する。

計画戸数	60戸
診断内容	現地調査、一般的補強アドバイスと改修工事を行うときの目安となる工事費の説明

■民間木造住宅耐震改修費

予算額 15,000千円

東海地震、東南海地震等の際、家屋倒壊等による被害軽減を図るため、昭和56年5月31日以前に着工された旧基準民間木造住宅の耐震化を支援する。

計画戸数	15戸
補助対象	判定値が1.0未満⇒1.0以上となる耐震改修工事等
補助金	1,000千円（身体障害者手帳の1.2級又は療育手帳のA種の方が世帯にいる場合は1,300千円）

■民間非木造住宅耐震診断補助金

予算額 1,400千円

昭和56年5月31日以前に着工された戸建て、併用住宅、共同住宅の非木造住宅耐震診断を支援する。

○一戸建て住宅	補助対象経費 耐震診断に要する経費 補助金交付額 対象経費の2/3以内（限度額86千円）
○戸建て以外の住宅	補助対象経費 ①耐震診断に要する経費 ②延べ面積に応じて算出した額（詳細※印） 補助金交付額 対象経費の2/3以内（限度額1,200千円/棟） ※1,000㎡以内⇒×2,000円 1,000㎡超～2,000㎡以内⇒×1,500円 2,000㎡超⇒1,000円

■住宅耐震改修相談会

予算額 140千円

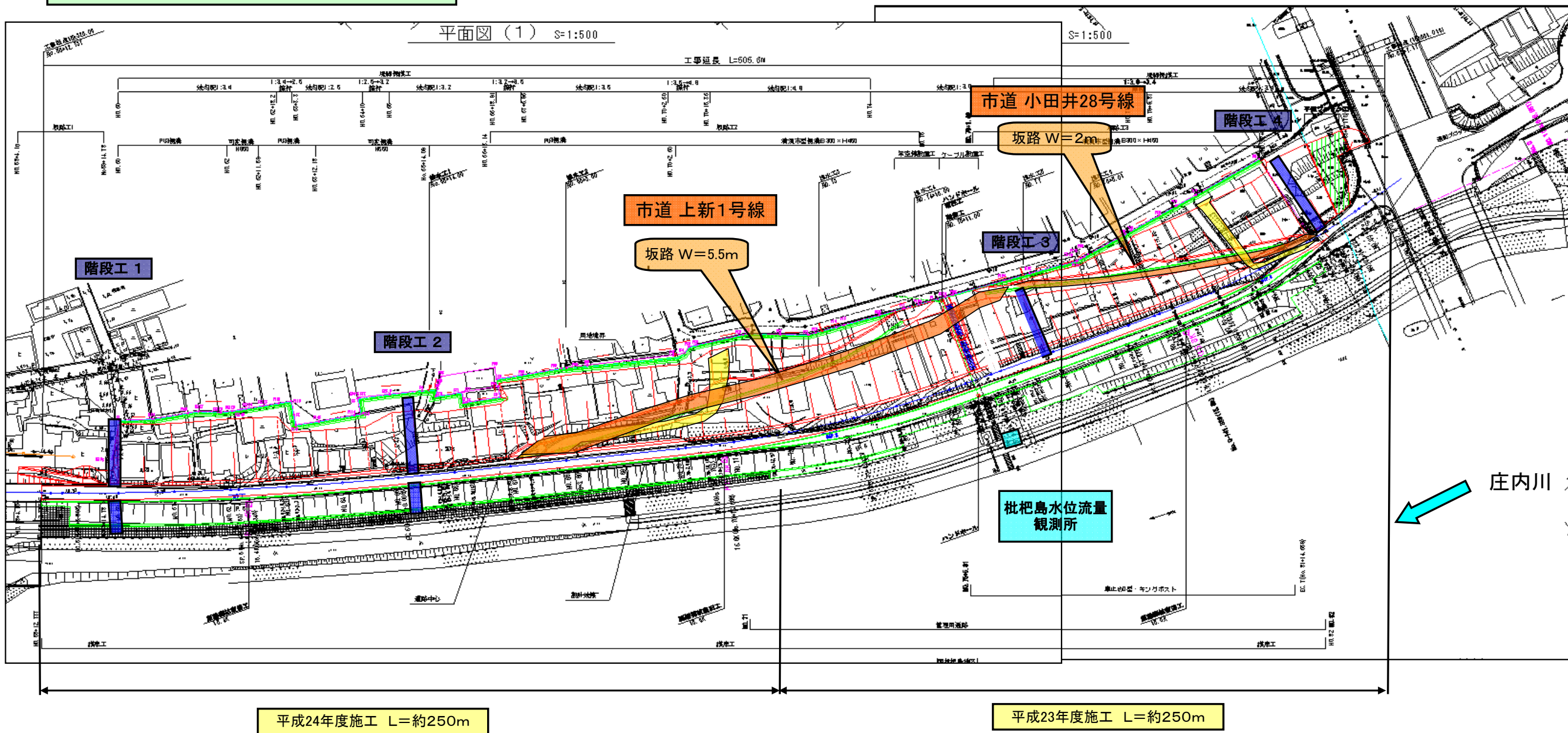
愛知建築士会会員を相談員として、耐震改修に関する相談会を開く。

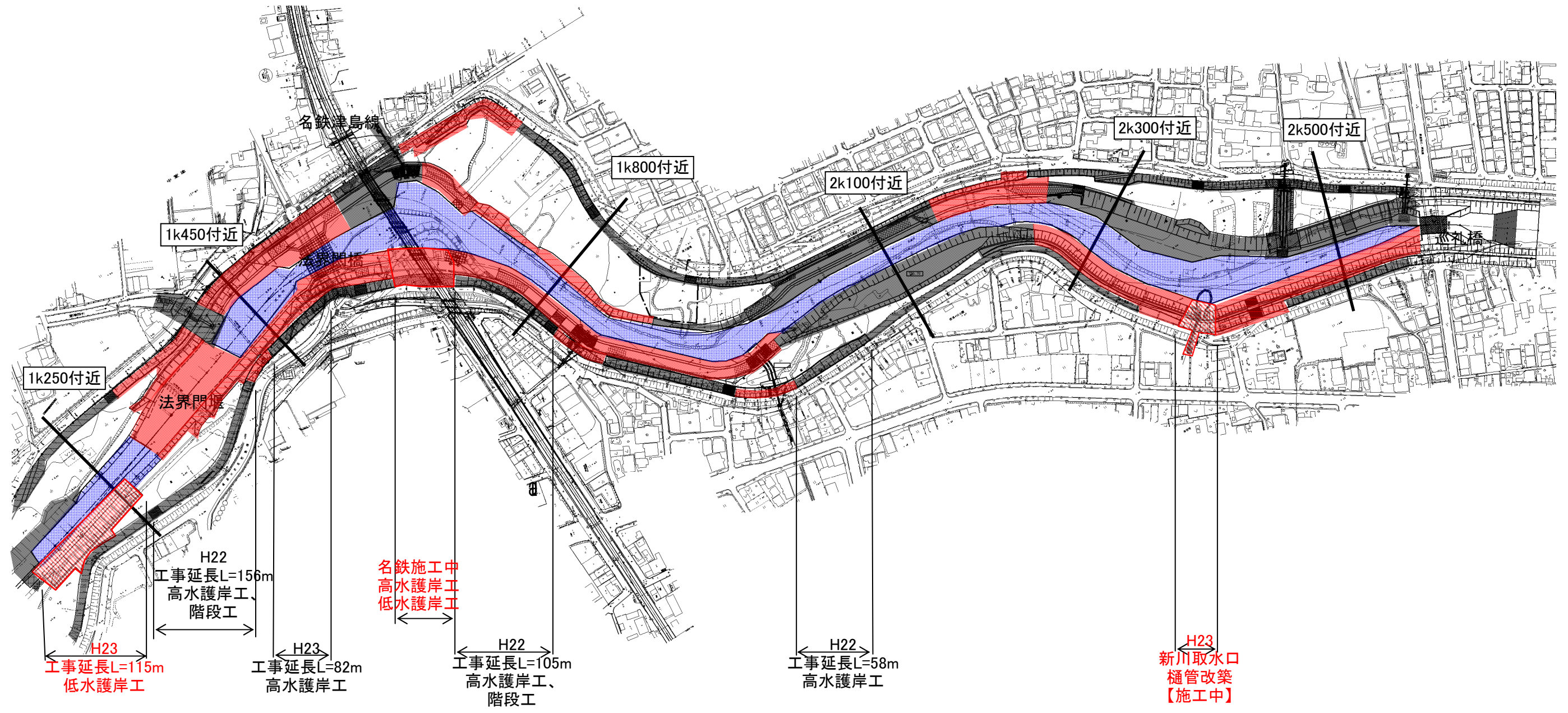
日時	年2回（9月・10月）9時30分～16時30分
会場	相談室（予定）

5 東日本大震災被災自治体の支援

福島県広野町への職員派遣（1年間）

庄内川西枇杷島地区築堤工事





凡例

	: 未整備
	: H24工事箇所
	: 河床浚渫
	: 整備済み